地方公共団体名	山形県

令和６年度
外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業　事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1　事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

① 協議会について

１．構成員（16 名）

・管理指導医１名、がん専門医１名、緩和ケア科医１名、がん経験者１名、小学校長会１名、中学校長会１名、高等学校長会１名、特別支援学校長会１名、養護教諭連絡協議会１名、県健康福祉部１名、県教育局学校体育保健課長１名、県教育局学校体育保健課事務局５名

２．開催時期、検討内容

・第１回（令和６年７月 26 日）：がん教育の普及・推進に向けた計画の検討

・第２回（令和７年１月 29 日）：がん教育に関する実践の検証、次年度方針の検討

② 教育委員会としての取組

１．推進校の指定（４校）

・小国町立小国中学校、酒田市立鳥海八幡中学校、山形県立南陽高等学校、山形県立寒河江工業高等学校

２．推進校への外部講師派遣

★小国町立小国中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和６年 10 月８日　<対象：１～３学年 158 名>

講　師：有限会社アシスト会計　村山　静香　氏

内　容：がん経験者による、「がんと共に生きる」ことについて学ぶ講演会

★酒田市立鳥海八幡中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和６年 11 月６日　<対象：２学年 75 名>

講　師：地方独立行政法人山形県酒田市病院機構日本海総合病院
医師　櫻井　博理　氏

内　容：がん専門医による「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立南陽高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和６年 10 月７日　<対象：１学年 87 名>

講　師：日本生命保険相互会社山形支社　小山　央　氏

内　容：がん経験者による「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立寒河江工業高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和６年 10 月 29 日　<対象：１～３学年 164 名>

講　師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　氏
社会医療法人みゆき会 みゆき会病院　黒田　昌宏　氏

内　容：医師及びがん経験者による、緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立寒河江工業高等学校へ外部講師を派遣し、ゲストティーチャーを招いた保健体育科・科目保健の授業を実施した。

日　時：令和６年 11 月１日、14 日　<対象：１学年計 82 名>

講　師：山形県立河北病院　がん薬物療法看護認定看護師　佐藤　ルミ子　氏

内　容：がん患者やそれを支える人が暮らしやすい社会にするために必要なことについて考える授業

３．がん教育指導者・外部講師研修会等の開催

★山形県健康教育研修会「がん教育指導者・外部講師研修会」①

日　　時：令和６年 10 月 18 日　<参加者：61 名>

行政説明：「山形県におけるがん教育の推進について」
県教育局学校体育保健課　学校保健担当

実践報告：令和５年度推進校での実践について

講　　師：ＮＰＯ法人がんサポートかごしま　理事長　三好　綾　氏

演　　題：『外部講師の役割と配慮事項』

研修形態：リアルタイム・オンライン研修

★山形県健康教育研修会「がん教育指導者・外部講師研修会」②

日　　時：令和６年 10 月 24 日　<参加者：62 名>

行政説明：「山形県におけるがん教育の推進について」
県教育局学校体育保健課　学校保健担当

実践報告：令和５年度推進校の実践について
大蔵村立大蔵中学校、山形県立東桜学館中学校
山形県立荒砥高等学校

講　　師：日本女子体育大学　教授　助友　裕子　氏

演　　題：『学校におけるがん教育の実際　～カリキュラム・マネジメントをふまえた指導のあり方を中心に～』

会　　場：山形市総合スポーツセンター 大会議室

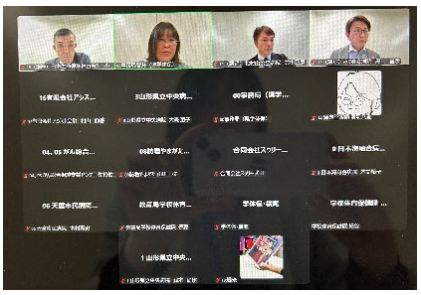
★子どもの健康づくり推進研修会

日　　時：令和６年 12 月５日　<参加者：63 名>

行政説明：「子どもの健康づくり連携事業について」「山形県におけるがん教育の推進について」
県教育局学校体育保健課　学校保健担当

研修形態：リアルタイム・オンライン研修

★県内学校におけるがん教育指導者・外部講師のための研修会



日　　時：令和７年１月 20 日　<参加者：18 名>

行政説明：「山形県におけるがん教育の推進について」
県教育局学校体育保健課　学校保健担当

講　　義：外部講師講演会の実際

講　　師：日本生命保険相互会社山形支社　小山　央　氏
社会医療法人みゆき会　みゆき会病院　黒田　昌宏　氏
北村山公立病院　医師　鈴木　真彦　氏

研修形態：リアルタイム・オンライン研修

③　健康福祉部や地域の専門機関等との連携

・山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課との連携を図り、推進校に「大切な家族へ検診受診を促すメッセージカード」を配布

・山形県健康福祉部及び県がん診療連携協議会等との連携を図り、県内外部講師リストを作成

（２）外部講師を活用したがん教育の授業

【小国町立小国中学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：「道徳」（がんの予防及び健康と命の大切さについて考える講演会）＊②教育委員会としての取組「２．推進校への外部講師派遣」を参考

３時間：「保健体育科・保健分野」（自分の生活習慣を振り返り、がん予防を考える授業の実践）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【酒田市立鳥海八幡中学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：「保健体育科・保健分野」（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考える講演会）＊②教育委員会としての取組「２．推進校への外部講師派遣」を参考

３時間：「保健体育科・保健分野」（先生方へのインタビューから生活習慣をふり返り、がん予防法を考える授業の実践）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立南陽高等学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：「保健体育科・科目保健」（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考える講演会）＊②教育委員会としての取組「２．推進校への外部講師派遣」を参考

３時間：「保健体育科・科目保健」（がんと共に生きる社会で個人的・社会的な取組について考える授業の実践）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立寒河江工業高等学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：「特別活動」（緩和ケアの観点から、がんそして命の大切さについて考える講演会）＊②教育委員会としての取組「２．推進校への外部講師派遣」を参考

３時間：「保健体育科・科目保健」（ゲストティーチャーとともにがん患者やそれを支える人が暮らしやすい社会について考える授業の実践）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

（３）その他

・外部講師体制の整備について

昨年度に引き続き、県内関係機関の協力を仰ぎ「がん教育における県内学校への外部講師派遣に向けた協力調査」を実施し、外部講師体制を整備した。令和５年度に作成したリスト表は、県内の市町村立小中学校、義務教育学校、県立学校等に送付し、県内学校におけるがん教育の推進を目指した。

・がん教育動画の作成について

学校におけるがん教育の補助教材として、県ホームページ（がん対策・健康長寿日本一推進課と学校体育保健課）に掲載した。学校におけるがん教育の補助教材として、県内学校での効果的な活用に向けて、周知を図っていく。

2　事業の達成度について

推進校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）

質　問	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	87.3	89.2	8.5pt
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	80.7	89.5	8.8pt
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（そう思う）	87.7	94.6	6.9pt
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	64.6	71.1	6.5pt
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	59.6	66.4	6.8pt
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）　※高校のみ	22.2	34.8	12.6pt
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	57.1	71.3	14.2pt

（%）

<外部講師によるがん教育講演会実施後のアンケート>

・どんな環境にいても、皆平等に患う可能性のある病気だと思った。それに加えて、原因を特定することが難しい病気であることも聞いたので、これからの人生でがんを患わないためにも、危険視されている、喫煙、飲酒などの行動は極力避けて行きたいと思った。【中学２年】

・がんは 2 人に 1 人がなる病気だが、はやく見つかったら治る確率も高いということが印象に残った。がんは治る人もいれば亡くなる人もいるから、ワクチンを打ったり、熱いものを多く食べないようにしたりと、予防できることは予防してがんにならないようにしたい。【中学 2 年】

・一人で悩まず、誰かに相談し治療し元通りの生活をする。「がんになったから」と絶望せず、できることを考えてやるべきことをやる。【高校 1 年】

・どんどん身近になっていくがんに対して、医療の進歩や戦い方が多様化していることについて知識を増やせた。がんにかからないことも大事ではあるが、がんにかかった時の心持ちや意識を大切にすることも学んだ。【高校 1 年】

・私の周りにもがんで苦しんで亡くなってしまった人がいて、がんにかかったらほとんどの人が楽しく過ごすことができなくなるものだと思っていたが、がん経験者の話を聞いて、意識を少し変えるだけで楽しく自分らしく過ごすこともできるのだと思った。また、改めて家族の大切さがわかり、これから当たり前だと思わずに感謝して生活していこうと思った。【高校 1 年】

3　今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

❖広報活動の充実

・各種研修会や県ホームページ等で、がん教育総合支援事業及び子どもの健康づくり専門医派遣事業等での実践事例を紹介し、保健指導を支援していく。

・がん教育動画（がん教育補助教材）の周知及び学校における効果的な活用を促す。

❖県内外部講師体制の整備

・県内関係機関の協力を仰ぎながら、地区ごとに偏りのない体制を整備していく。

・募集期限を設けず、県ホームページ内で随時募集する。

❖がん教育指導者・外部講師研修会の持ち方の工夫（参加対象者、開催方法、研修内容等）

・県立学校は悉皆研修として実施し、保健体育科教員においては令和６～７年度までの２年間で各校１回以上の参加を促す。

・多くの参加者を募るため、対象者別、目的別に開催方法等を工夫する。

・前年度推進校によるがん教育の取組と外部講師の実践報告等、研修内容の充実を図る。